

## 会社概要

平成28年3月31日現在

商号	デリカフーズ株式会社
英文社名	DELICA FOODS CO., LTD.
設立	平成15年4月1日
創業	昭和54年10月6日
所在地	〒121-0073 東京都足立区六町四丁目12番12号
資本金	1,377,113千円
従業員数(連結)	349名(他、平均臨時雇用者数1,514名)

## 役員

代表取締役社長	小笠原 真清
取締役会長	館本 勲武
専務取締役	杉 和也
常務取締役	大崎 善保
社外取締役	尾崎 弘之
常勤監査役	野村 五郎
社外監査役	山口 隆
社外監査役	田中 清隆

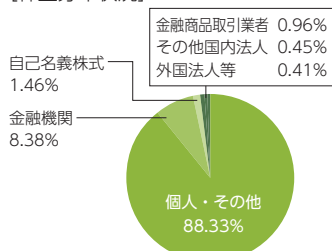
会計監査人 仰星監査法人

## 株式状況

平成28年3月31日現在

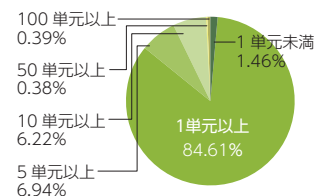
発行済株式総数	7,436,000株
株主総数	13,032名

[株主分布状況]



大株主	
館本 勲武	1,132,800株
館本 篤志	1,019,200株
日本トラスティ・サービス 信託銀行(株)(信託口)	214,400株
大崎 善保	125,000株
デリカフーズ(株)(自己株式)	108,502株
小笠原 真清	107,200株
岡本 高宏	100,100株
杉 和也	100,000株
野村 五郎	99,400株
デリカフーズグループ 従業員持株会	98,000株

[所有株式数別分布状況]



## 株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL.0120-232-711(通話無料)
上場証券取引所	株式会社東京証券取引所(証券コード3392)
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL <a href="http://www.delica.co.jp/">http://www.delica.co.jp/</a> (ただし、電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

## 【ご注意】

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機構(証券会社等)で承ることになっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。



“Fresh & Speedy”

デリカフーズ株式会社

〒121-0073 東京都足立区六町四丁目12番12号



【お問い合わせ】

TEL 03(3858)1037

FAX 03(5851)1056

<http://www.delica.co.jp/>

デリカフーズ

IR最新情報はHPをご覧ください。



本事業報告書は、地球環境への負担を低減させるために、FSC®認証紙と、大豆油などをリサイクルして作られたベジタブルインクを使用しています。

UD FONT

見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。



デリカフーズ株式会社  
DELICA FOODS CO., LTD.

東証1部 証券コード3392

13

第13期 事業報告書

平成27年4月1日▶平成28年3月31日

INVESTOR RELATIONS  
DELICA REPORT  
[デリカレポート]





# TOP MESSAGE



代表取締役社長  
**小笠原 真清**  
(おがさわら ますみ)

株主の皆様には平素より格別のご高配を賜りまして、厚く御礼申し上げます。当期も売上が順調に推移し、ここに事業報告をすることができました。これもひとえに、株主の皆様のご理解、ご支援の賜物と、重ねて心より御礼を申し上げます。

当連結会計年度における当社グループを取り巻く経営環境といたしましては、国内の景気は緩やかな回復基調であるものの、中国をはじめとする海外景気の減速懸念などにより先行きは依然として不透明な状況で推移いたしました。食品関連業界におきましても、人手不足による人員確保リスクの増大やそれに伴う労働コストの上昇などにより、引き続き厳しい経営環境が続いております。

このような状況のなか、当連結会計年度が中期経営計画における第二段階の初年度に当たることから、さらなる売上拡大のための施策を進めてまいりました。

特に「食の安全への取り組み」としては、新たに連結子会社大阪デリカフーズの兵庫工場及び奈良FSセンターでISO22000認証を取得いたしました。また、東京FSセン

ターでは、FSSC22000認証の取得に成功いたしました。今後も、グループの全工場で取得を目指すことで、同業他社との差別化を図るとともに、食の安全確保という社会的責任を果たしてまいります。

このような各種経営施策を実行した結果、当連結会計年度における売上高は31,573百万円(前期比12.6%増)となりました。利益につきましては、上期は天候不順や奈良FSセンター開設に伴う立ち上げ費用の発生及び減価償却費の増加等があり前年と比べ減少したものの、下期は天候に恵まれたことやグループを挙げて生産性改善活動に取り組んだこと等により収益性が改善したため、営業利益は683百万円(前期比8.4%減)、経常利益708百万円(前期比7.5%減)、親会社株主に帰属する当期純利益は400百万円(前期比18.1%減)となりました。

今後も業績の向上に尽力し、農業の発展と人々の健康増進に貢献してまいりますので、株主の皆様には引き続きご指導、ご鞭撻賜りますよう、お願い申し上げます。

## 業績の概況

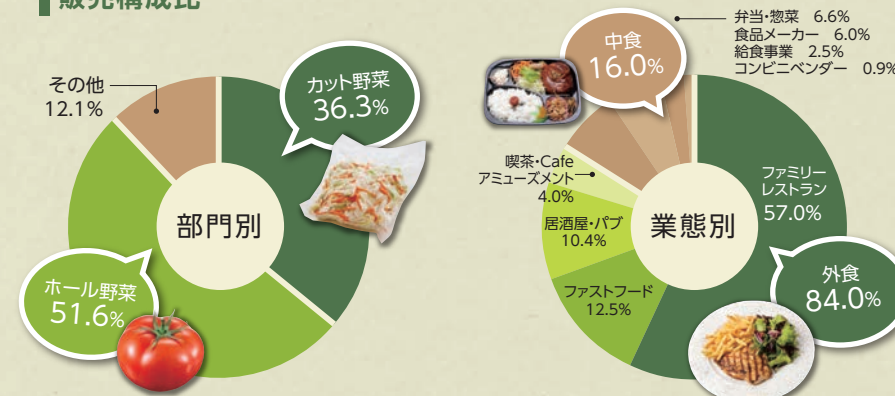
### 当連結会計年度の業績

売上高	31,573百万円 (前期比12.6%増)
営業利益	683百万円 (前期比8.4%減)
経常利益	708百万円 (前期比7.5%減)
親会社株主に帰属する当期純利益	400百万円 (前期比18.1%減)
1株当たり当期純利益	54.67円
総資産利益率(ROA)	2.37%
株主資本利益率(ROE)	6.04%

## 当連結会計年度の売上高は、過去最高となりました。

新規顧客獲得や奈良FSセンターの新設稼働、コンサルティング業務の受注増加などにより、売上高は初めて300億円を超え過去最高額となりました。しかし、上期の天候不順による原料価格の高騰や新工場立ち上げ費用の発生により、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益ともに前年同期と比べて減少しております。

### 販売構成比



加工しない野菜そのものをホール野菜、開封してすぐに食べられる状態にしてあるものをカット野菜と呼んでいます。外食産業の人手不足により、カット野菜へのニーズが年々高まっています。

外食・中食と大きく分けて2つの業態があり、全体の8割以上が外食産業向けの売上となっております。その中でもファミリーレストラン向けの売上が最も多く、また年々中食の割合が増加しております。

### 取締役のご紹介



すぎ かずや  
**杉 和也**

デリカフーズ株式会社  
専務取締役  
大阪デリカフーズ株式会社  
代表取締役社長



おおさき よしやす  
**大崎 善保**

デリカフーズ株式会社  
常務取締役  
東京デリカフーズ株式会社  
代表取締役社長



たちもと いさたけ  
**館本 勲武**

デリカフーズ株式会社  
取締役会長



おおさき ひろゆき  
**尾崎 弘之**

デリカフーズ株式会社  
社外取締役

# デリカフーズの **徹底した** 食の安全・安心への取り組み

「お客様へより安全・安心な食べ物をお届けしたい」という思いから、デリカフーズグループでは、食品安全の国際標準規格であるISO22000の取得を進めています。今回も新たに2つの工場で認証を取得しました。また、東京FSセンターでは、新たにFSSC22000認証も取得し、ISOに加えフードディフェンス(食品防御)のシステムも強化いたしました。

## 各工場の取得状況

※工場併設事業所のみ掲載

- ...東京デリカフーズ(株)
- ...大阪デリカフーズ(株)
- ...名古屋デリカフーズ(株)



食の安全・安心を守るためのルール

# ISO 22000 認証

ISO22000は、食品の衛生管理レベルを継続的に向上させるためのルールを定めた、世界共通の規格です。この認証を取得することで、お客様の「食の安全・安心」に対するニーズにお応えいたします。

### 衛生管理とルールの徹底



ISO22000を取得するためには、「食品を扱う上で守らなければならないルール」を全て確認します。そしてそのルールを守るための仕組みがきちんと整備されているか一つひとつチェックをします。

### 危害(ハザード)の分析と対策



衛生管理だけでなく、食品安全を脅かす危害(ハザード)の分析をします。ハザードの例としては、病原菌の増殖や異物混入が該当します。分析に対して対策や管理手順を従業員に徹底させます。

衛生管理、安全管理の行きとどいた工場、お客様に喜んでいただける

商品を、毎日作り続けてまいります。

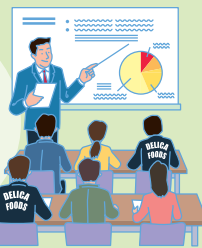
ISO22000に  
フードディフェンス(食品防御)を加えた

# FSSC 22000 認証

ISO22000に新たな基準を加えた発展型の規格が「FSSC22000」です。今回初めて東京デリカフーズ(株)東京FSセンターで認証の取得に成功いたしました。

### 社員教育の徹底

食品安全に関する勉強会を定期的に実施。



### 薬品の管理

工場の内外で使用する全ての薬品類をルールに従って管理。



### 外部からの侵入を防ぐ

IDカードの利用で決められた人しか工場内に入れない仕組みを導入。



### 従業員の健康管理

従業員の体調管理をすることで、働く人と商品の安全を守る。



安全安心 + おいしい!

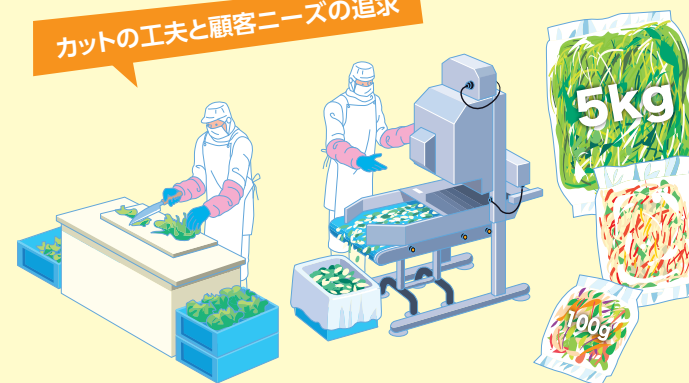
デリカフーズの野菜の秘密

### 野菜の鮮度を保つ



徹底した温度管理で野菜の鮮度を保持します。工場に野菜が入ってきてから、商品としてお客様に届くまで、すべての作業が4~5℃設定の工場内で行われます。また、ジャスト・イン・タイム生産方式を導入しており、お客様へ毎日新鮮な商品をお届けすることができます。

### カットの工夫と顧客ニーズの追求



デリカフーズグループの工場では、お客様のご要望に合わせて約600種類以上のカット野菜を製造しています。野菜をカットする際、熱に弱い葉物の野菜は、人の手の温度が伝わらないよう機械でカットするといった工夫をしております。少量パックから最大で5キロのものまでお客様のメニューやニーズに合わせて生産を行っております。



東京デリカフーズ株式会社  
大阪デリカフーズ株式会社

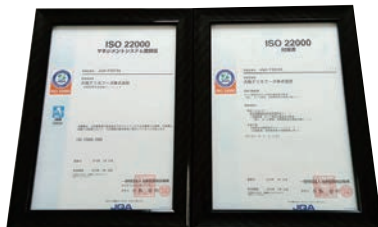


### 東京FSセンターでFSSC22000、 兵庫工場と奈良FSセンターで ISO22000を取得



東京デリカフーズ(株)は2016年3月、昨今の異物混入やフードテロリズム等に対する関心の高まりに応えるため、より厳密な衛生管理基準が求められる「FSSC22000」認証を東京FSセンターで取得いたしました。また、大阪デリカフーズ(株)では2016年3月に兵庫工場と、奈良FSセンターで「ISO22000」の認証を取

得しました。今回の特集でもこちらについて取り上げておりますので、あわせてご覧ください。



東京デリカフーズ株式会社  
エフエスロジスティクス株式会社

### 物流子会社が 本格的に事業を開始



2014年10月30日に設立したエフエスロジスティクス(株)が本格的に事業を開始し、順調に社員数・車両数を伸ばしております。「スーパーコールドチェーン」実現のため、365日24時間体制のチルド配送による1都6県のネットワークを構築。今後はチルド食材専用の物流会社として、当社に限らず業界内の物流業務を請け負う計画です。



東京デリカフーズ株式会社  
商品開発部門

### ホール野菜、カット野菜につぐ、 第3の商品の開発「真空加熱野菜」



真空加熱野菜とは、カット野菜を専用の袋に入れ、真空状態にしてから加熱処理したものです。加熱調理済みのため、調理時間の短縮や現場スタッフの労力軽減、メニューのバリエーション増加や野菜の摂取量増大といったメリットがあります。人手不足やオペレーションのマニュアル化が進む外食業界をはじめ、病院や介護用給食を手がける業界からも高い注目を集めています。



デザイナーフーズ株式会社  
研究開発部門



### 研究開発部門で トマトの非破壊選果装置を開発中

研究開発部門では、トマトを破壊せずに成分分析・選果できる装置を開発しております。これにより、品質の揃ったトマトをお届けできるだけでなく、付加価値のあるトマトを販売できるようになります。これらを通じ、新たな野菜の販売方法を開拓してまいります。



トマトの  
選果装置

高品質トマト(糖度、リコペン、活性酸素消去能に優れたトマト※)を選果できる装置。  
※当社分析の平均値と比較

美味しくリコペンの多いトマトは価格差をつけて販売できることを検証しています。







連結貸借対照表 (要旨)

単位：千円

資産の部	第12期	第13期
	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当連結会計年度 (平成28年3月31日)
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	5,852,809	5,045,385
売掛金	3,130,683	3,419,582
商品及び製品	76,759	116,765
仕掛品	3,842	5,926
原材料及び貯蔵品	43,314	46,874
繰延税金資産	64,460	55,079
その他	91,459	263,909
貸倒引当金	△6,039	△6,818
<b>流動資産合計</b>	<b>9,257,290</b>	<b>8,946,706</b>
<b>固定資産</b>		
有形固定資産		
建物及び構築物 (純額)	2,402,190	2,830,443
土地	3,249,504	3,249,504
その他 (純額)	1,315,994	1,611,059
有形固定資産合計	6,967,688	7,691,007
無形固定資産		
その他	37,550	46,086
無形固定資産合計	37,550	46,086
投資その他の資産		
投資有価証券	248,925	292,037
繰延税金資産	4,889	7,569
その他	168,564	208,448
貸倒引当金	△6,276	△8,134
投資その他の資産合計	416,103	499,921
<b>固定資産合計</b> <b>1</b>	<b>7,421,342</b>	<b>8,237,015</b>
<b>資産合計</b>	<b>16,678,633</b>	<b>17,183,721</b>

	第12期	第13期
1株当たり当期純利益 (円)	78.38	54.67
1株当たり純資産額 (円)	894.77	935.72
自己資本 (百万円)	6,554	6,856
自己資本比率 (%)	39.3	39.9

単位：千円

負債の部	第12期	第13期
	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当連結会計年度 (平成28年3月31日)
<b>流動負債</b>		
買掛金	1,579,228	1,771,120
短期借入金	760,000	588,000
1年内返済予定の長期借入金	657,320	769,661
未払法人税等	221,645	123,605
未払金	1,160,091	1,016,775
その他	194,220	212,273
<b>流動負債合計</b>	<b>4,572,506</b>	<b>4,481,436</b>
<b>固定負債</b>		
長期借入金	5,300,978	5,535,316
繰延税金負債	15,311	13,634
その他	230,939	293,360
<b>固定負債合計</b>	<b>5,547,228</b>	<b>5,842,310</b>
<b>負債合計</b>	<b>10,119,734</b>	<b>10,323,747</b>
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>		
資本金	1,377,113	1,377,113
資本剰余金	2,164,570	2,164,470
利益剰余金	3,002,190	3,278,172
自己株式	△50,217	△49,308
<b>株主資本合計</b>	<b>6,493,657</b>	<b>6,770,448</b>
<b>その他の包括利益累計額</b>		
その他の有価証券評価差額金	61,013	86,022
<b>その他の包括利益累計額合計</b>	<b>61,013</b>	<b>86,022</b>
<b>新株予約権</b>	<b>4,228</b>	<b>3,503</b>
<b>純資産合計</b>	<b>6,558,898</b>	<b>6,859,973</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>16,678,633</b>	<b>17,183,721</b>

**ポイント** 1 固定資産

固定資産は、前連結会計年度末に比べ11.0%増加しました。これは、主として、奈良FSセンターの新設、西東京FSセンター建築工事によって、建物及び構築物が428百万円、建設仮勘定が242百万円増加したことによります。



連結損益計算書 (要旨)

単位：千円

	第12期	第13期
	前連結会計年度 (自平成26年4月1日 至平成27年3月31日)	当連結会計年度 (自平成27年4月1日 至平成28年3月31日)
売上高	28,042,469	31,573,514
売上原価	20,940,537	23,890,595
売上総利益	7,101,931	7,682,918
販売費及び一般管理費	6,355,907	6,999,664
営業利益	746,023	683,254
営業外収益	89,589	80,227
営業外費用	69,849	55,277
経常利益	765,763	708,203
特別利益 <b>2</b>	41,673	89,084
特別損失 <b>3</b>	13,957	153,990
税金等調整前当期純利益	793,478	643,297
法人税等合計	304,414	242,782
<b>親会社株主に帰属する当期純利益</b>	<b>489,064</b>	<b>400,515</b>



連結株主資本等変動計算書 (要旨)

当連結会計年度(自平成27年4月1日 至平成28年3月31日)

単位：千円

	株主資本					その他の包括利益累計額		新株予約権	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	その他の包括 利益累計額合計		
当期首残高	1,377,113	2,164,570	3,002,190	△50,217	6,493,657	61,013	61,013	4,228	6,558,898
当期変動額									
剰余金の配当			△124,533		△124,533				△124,533
親会社株主に帰属する 当期純利益			400,515		400,515				400,515
自己株式の処分		△99		908	809				809
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)						25,008	25,008	△724	24,283
当期変動額合計	—	△99	275,982	908	276,791	25,008	25,008	△724	301,074
当期末残高	1,377,113	2,164,470	3,278,172	△49,308	6,770,448	86,022	86,022	3,503	6,859,973

**ポイント** 2 特別利益

主に、大阪デリカファース(株)奈良FSセンター建設に伴う補助金収入によります。

**ポイント** 3 特別損失

主に、神奈川事業所の過熱野菜設備の除却等による固定資産除却損(16百万円)、補助金収入に伴う固定資産の圧縮損(88百万円)、従業員数増加に伴い、退職給付債務の計算方法を簡便法から原則法に変更したことによる退職給付費用(41百万円)です。

**ポイント** 4 投資活動によるキャッシュ・フロー

奈良FSセンター、西東京FSセンター建設等に伴い、有形固定資産の取得による支出1,393百万円が発生いたしました。



デリカと  
社会をつなぐ  
セミナー紹介

## 野菜の価値を広めるために 役立つ知識を積極的に発信しています。

デリカフーズでは野菜のチカラや活用方法を社内外に広めるため、「生命食セミナー」や「健康野菜塾」を定期的で開催しております。



# 生命食セミナー

一般  
向け

デザイナーフーズ(株)が15年以上にわたり蓄積してきた約25,000検体の青果物の分析データを活かし、東京と名古屋で健康と野菜に関するセミナーを開催しております。「命につながる食」をメインテーマとし

て、素材を活かした食べ方やメニューの提案、旬の野菜の紹介など、毎月内容を変えて開催しています。リピーターのお客様も多く、様々な職種の方が参加されています。



毎月開催されるセミナーは活気にあふれています。

健康野菜塾ではメニュー提案も兼ねて実際に調理した野菜の試食会を行っています。



# 健康野菜塾

事業者  
向け

東京デリカフーズ(株)では、より良い野菜をお届けするための勉強会・セミナーを定期的で開催しております。講師をお招きする特別講演、デリカフーズからのご提案を含む情報発信、

野菜の良さを活かしたメニュー紹介といった内容で実施しています。ご来場いただいたお客様からは「参考になった」「野菜のチカラに驚いた」などご好評いただいております。



## 産地 レポート vol.6

デリカフーズに野菜を納入していただいている生産者のみなさんをご紹介します。  
株式会社いばらき農流研 瀧原農園  
[茨城県]

株式会社いばらき農流研  
茨城県小美玉市



「実需者に望まれるものを把握して作る事が大事である」という考えのもと、加工業務の取引先を探していたところデリカフーズと出会い、10年のお付き合いになります。農場が安定して成長できるようなサプライチェーンを作るために活動しています。

農園を運営する瀧原さんご一家

## “美味しくて安心できる水菜”を目指して、JGAP認証も取得した生産者のこだわり。

いばらき農流研では、水菜と小松菜、ルッコラの3種類をハウス栽培しています。特に中心となるのが水菜であり、13年ほど前に生産を始めました。敷地内には130棟のビニールハウスが並んでおり、生産と土の養生を1年に4回、交互に行いながら生産しています。一番苦労しているのは、病気対策。野菜の安全・安心のために、なるべく薬剤は使わない方法をとっています。特に、土の病気に対しては病原菌を殺菌するため、10日間にわたってハウスの中の土をビニールで覆い、太陽光による熱処理をしています。その

温度は、60～70℃にも達しており、殺菌に高い効果を上げています。肥料は時期などに合わせて7～8種類を使い分けています。また、農薬を正しく使っている証拠として、安全な農作物を作るための基準である「JGAP※」という認証を取得しています。このように安全を最優先に考えながら、美味しい野菜を作り続けています。

※農林水産省も推奨している農業の取り組みの一つで、専門の審査員が農場へ足を運び、120項目以上に及び安全・安心のためのチェックをしています。



農流研代表の玉造さん写真右と瀧原農園の皆さん